

消防機器早わかり講座

蓄圧式消火器用指示圧力計

技術基準 [蓄圧式消火器用指示圧力計の技術基準](#) (昭和 61 年 4 月 23 日)
設置基準 [消防法施行令第 10 条](#)



指示圧力計

<構成部品としての機器>

蓄圧式消火器用指示圧力計（以下「指示圧力計」という）は、消火器のうち、蓄圧式消火器の構成部品です。

<機器等の説明>

1 概要

消火器は、本体内部のガス容器を作動させることにより消火剤を放射する加圧式と、本体容器内に圧縮ガスを直接充填した蓄圧式の2種類に大きく分類することができます。

したがって、蓄圧式消火器では、常時消火器本体内に適切な圧力でガスが充填されているかどうか、機能を発揮させるために非常に重要なポイントになってきます。この充填圧力を容易に確認できるようにするため、蓄圧式消火器（二酸化炭素消火器及びハロン1301消火器は除きます。これは当該充填圧力が指示圧力計の許容最大値より高い圧力であるためです。）には指示圧力計の設置が義務づけられています。



取り付け例

2 指示圧力計の特徴

指示圧力計は、市販されている普通の圧力ゲージと基本的構造は同じですが、大きく異なっている点がひとつあります。それが、**目盛板**です。指示圧力計の目盛板は、概ね右図のようになっています。この目盛板には細かい目盛りが入っておらず、代わりに緑色の帯で範囲が示されています。

この緑色の範囲に指針が入っていれば、その消火器は適切な圧力で充填されていることがわかります。なお、呼び名には「圧力計」という言葉が入っていますが、指示圧力計の目的は単に緑色範囲に入っているかどうかを見るのが目的です。したがって、指示圧力計から圧力値を読み取ることはできません。

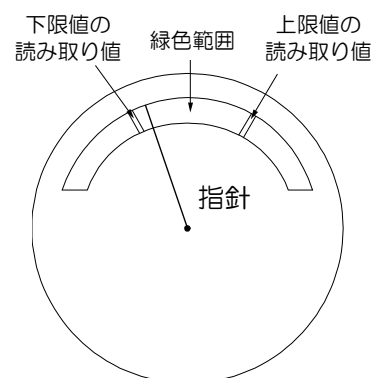


図 目盛板

3 圧力の下限及び上限の数値

一般的に言って、緑色範囲の下限値は 0.7MPa、上限値は 0.98MPa に設定されています。ここで、0.98MPa という不自然な値に疑問を感じた方も少なくないでしょう。

これには理由がありまして、もし 1.0MPa としてしまうと、高圧ガス保安法で定義されている「高圧ガス」に該当してしまうのです。そこで、この様な値が設定されています。

認証区分	品質評価
根拠条文	消防法第 21 条の 36
制度の概要	検定協会が基準に適合することを検査し、合格の表示を付す。(法的拘束力はなし)

<表示>

○ 型式番号

日本消防検定協会の型式評価において、製品の形状、構造、材質、成分及び性能が基準に適合するものに付けられる番号です。『品評圧第〇〇～〇〇号』という形式で記載されます。

○ 型式適合評価合格の表示

日本消防検定協会の型式適合評価に合格した製品には、右のような型式適合評価合格の表示がシールにより表示されます。



型式適合評価合格の表示（シール）
（シールの大きさ:外径 8mm）